

こども海の文学賞 書き方のヒント

あかし 明石おさかな普及協議会、2023年版

【ノンフィクションとは】

フィクション（創作、作り話）ではない、事実にもとづいた作品、物語、記事のこと。

自分で見たり、聞いたり、感じたり、体験したりしたことを、調べて、考えて、わかったうえで、

作り話を加えず、自分の言葉、文章で表現します。

〈例〉観察記録、レポート、体験記、旅行記、インタビューをまとめた記事、

社会のできごと取材したルポタージュ（現地からの報告）、など

【テーマを決めよう、みつけよう】

自分が体験したこと／自分の外側で興味を持ったこと＝大きくわけて2種類あります。

「もっと知りたい」「だれかに伝えたい」「書いて残したい」ことが、テーマにぴったり。

「おもしろい」「ワクワクする」「感動した」と感じたことを、題材にしてみましょう。

〈海のノンフィクション作品を募集しています〉

海から思いうかべることをあげてみよう

・魚、貝、海の生き物、海の幸＝つり、料理、せり、水族館、飼育、生態、魚屋、卸売市場・・・

・海岸、ビーチ＝海水浴、風景、砂浜、ビーチバレーなどのスポーツ、ごみ拾い・・・

・船＝旅行、クルーズ、造船場、漁船、博物館での展示（むかしの船、エンジンなど）・・・

うみ はたら ひと しごと りょうし ひと せんすいし うみ あんぜん みまも ひと こうかいし
・海で働く人、仕事＝漁師、せりをする人、潜水士、海の安全を見守る人、航海士、ライフセイバー…

うみ かんきょうもんだい せいめいたい じこ
・海とのつながり＝環境問題、生命体、事故などのニュース…

☆テーマは無限にあります。海に関係していれば、どんな内容を選んでもOKです☆

【企画書をつくろう】

①タイトル、キャッチコピーを**かんが**えよう

なぜこのテーマに取り組むのか、なにを知りたいのか、なにを**めざ**したいのかがはっきりしてきます。

ぶんしょう かんせい だいめい さくひんめい おな
文章が完成してからつける**だいめい**、作品名と同じでなくてもかまいません。

②企画書を書いてみよう

◎まずタイトル(仮でもOK)、テーマ、キャッチコピー

◎書きたいと思った理由、興味を持ったポイント、伝えたいこと

◎話をききたい人、知りたいこと、集める資料、見学したい場所

【調べてみよう】

①本、印刷物

◎基礎知識を得る＝百科事典、**おんざん**…

◎くわしく知る、知識を深める＝入門書、専門書、統計、関連する図書、新聞、雑誌…

て ほうほう しょてん か としょかん はくぶつかん しりょうかん びじゅつかん りょう
手にいれる方法＝書店で買う／図書館や博物館、資料館、美術館などを利用する

としょかん ほん しゅうしゅう せいり せんもんてき しごと ししよ
図書館には本の収集や整理など専門的な仕事をする「司書」、

はくぶつかん しりょうしゅうしゅう ちょうさけんきゅう がくげいいん そうだん
博物館には資料収集や調査研究のプロ「学芸員」がいるので、相談してみましょう。

〈ノートに書き写す、コピーするときのポイント〉

しゅつてん じょうほう で めいき
出典(情報の出どころ)を明記しましょう。

ほん さいご おくづけ しよめい ちよしゃめい しゅつばんしゃめい きにゆう
本の最後のほうにある「奥付」にかいてある「タイトル(書名)、著者名、出版社名」を記入。

図書館の本に線を引いたり文字を書き込んだりしてはいけません。
ノートやコピーには気になったことをどンドン書き込み、印をつけておこう。

②インターネット

がいよう はあく べんり しゅだん じょうほう たんじかん え
概要を把握するには便利な手段で、たくさんの情報を短時間で得ることができですが、

じょうほう ただ しつ き
その情報が正しいかどうか、「質」に気をつけましょう。

しんらいせい たか はっしんもと けいさい ふくすう ひと かくにん
〈信頼性が高い発信元〉=掲載までに複数の人によって確認されている

しんぶんしゃ しゅつばんしゃ
◎新聞社や出版社のニュースサイト

しやうちやう としよかん はくぶつかん きぎやう だいがく けんきゆうきかん こうしき
◎省庁、図書館、博物館、企業、大学、研究機関などの公式ホームページ…

かつようほうほう
〈おすすめの活用方法〉

しら つか え
◎調べはじめるときに使うヒントを得る

ほん しんぶん ふくすう じょうほう かくにん
◎本や新聞などもふくめ、複数の情報で確認する(ウラをとる)

げんち い たいけん かんさつ
【現地へ行こう、体験しよう、観察しよう】

ほん しら たいせつ じっさい たいけん じゅうよう じょうほう え おお
本で調べることも大切ですが、実際に体験することで重要な情報を得られることが多いです。

とくに、自分の体験をテーマにした作品は、こちらの比重がぐんと大きくなります。

◎五感で体験＝視覚(みる)、聴覚(きく)、触覚(ふれる)、味覚(あじわう)、嗅覚(においをかぐ)

◎よく観察しよう＝大きさ、色、形、時間、景色、表情、動きや変化など

◎具体的な言葉でメモしよう＝大きさの場合はなんセンチ？ なにかに例えたり比較したりもしよう

◎写真を撮ったり、イラストや図を描いたりしておくのもおすすめ

【話をきいてみよう】

①話をきく前の準備

◎ききたい人、ききたいことをメモする＝企画書が役立つ

◎取材をおねがいする＝名前を名乗り、電話、手紙、メールなどで依頼

企画内容、ききたいこと、取材希望日時(いつごろ・どれくらいの時間会ってほしいか)

発表予定(課題として学校に提出する、こども海の文学賞に応募する、など)を伝える

◎会う前に、企画書やノート、資料を読み返して、質問したいことを整理しておく

◎持ち物は、ノートと筆記用具(場合によってカメラ、レコーダー、資料)

②話をきくとき

レコーダーで録音する時、写真を撮影するときは、「録音(撮影)してもよろしいですか?」と、許可をもらいましょう。

◎企画内容や動機について説明

◎考えてきた質問をして、話をききながら出てきたあらたな疑問もたずねよう

◎話をききながら、ノートにメモをしたり、レコーダーに録音したりして、記録しよう

◎「はい」「なるほど」「おもしろいですね」と、^{ほんのう}反応したり、^{かんそう}感想を話したりすると、

^{かいわ}会話がはずみやすい。^{あいて}相手が話しやすい^{ふんいき}雰囲気づくりを^{こころが}心掛けよう

◎^{あいて}相手が話す様子もよく^{かんさつ}観察しよう。^{くちよう}口調、^{ふくそう}服装、^{かな}うれしそうとか^{かな}悲しそうといった^{かんじよう}感情、

^{へや}部屋の様子、^{ようす}見せていただいたものなどもメモしておこう

【書いてみよう】

◎「^{つた}伝えたいこと」を^{かくにん}確認する＝^{きかくしょ}企画書、^{しりよう}ノート、^ふ資料を^{かえ}振り返ろう

◎「^か書く必要があること」を^{ひつよう}あげる＝いつ、どこで、だれが、なにを、なぜ、どのようにしたか

◎「^か書く順番」を^{かんが}考える＝^{きょうみ}わかりやすさ、^も興味をもってもらえるように、^あ盛り上げ方など

◎「^ひ引き立てる」^た情報を^{じょうほう}そえる＝^{ひょうじよう}表情や^{ようす}様子、^{くちよう}口調、^{けしき}景色、^{おお}大きさ、^{いろ}色などを^{ぐたいてき}具体的に^{びようしゃ}描写

^{しりよう}データ、^{いんよう}資料からの^{ほきよう}引用で^{きょうちよう}補強、^{きょうちよう}強調

◎^{なが}長い作品では「^{さくひん}目次」や「^{もくじ}小見出し」をつける

◎^か書く「^{かんが}スタイル」を^{かんが}考える

☆^{いちにんしやう}一人称（^{わたし}私、^{しゅご}ぼくが主語）＝^{ひっしや}筆者の^{してん}視点。^{じぶん}自分が見たり^み経験したりしていないことは^{けいけん}書けない

☆^{でんぶん}伝聞（^{じぶん}〇〇らしい、^{してん}〇〇だそうだ）＝^{ひっしや}視点は^{じぶん}筆者にあるが、^{けいけん}自分の^{ばあい}経験ではない場合に

☆^{さんにんしやう}三人称（^{かれ}彼、^{かのじよ}彼女、^{しゅご}〇〇さんが主語）＝^{じぶん}テーマを^{そと}自分の外に^{せってい}設定しているとき

☆^{かいわ}会話＝「^{はつげんしや}」をつかう。^{はつげんしや}発言者がだれなのかわかるように

☆^{いんよう}引用＝^{たにん}他人の^{ぶんしやう}文章（^{ほん}本、^{しりよう}資料など）の^{いちぶ}一部を、^{じぶん}自分の^{ぶんしやう}文章に^か書き^{うつ}写す。^{せつとくりよく}説得力が増す

どこから引用したか「出典」を明記しよう。一字一句変えずに転記すること。

文章をそのまま引用していないけれど参考にした本や資料は、原稿の最後に「参考文献」と本や資料の「書名、著者名、出版社名、発行年」などを列記しておこう。

また、統計やデータは「〇〇によると、」（〇〇調べ）」としてもかまいません

〈例〉全国漁業協同組合連合会によると、都道府県別のノリ生産枚数は2014年度、兵庫県が12.7億枚で全国2位だった。

〈例〉2014年度の兵庫県のノリ生産枚数は12.7億枚で、全国2位（全国漁業協同組合連合会調べ）。

◎「書き出し」を工夫しよう。先を読みたいなど興味をもってもらえると、つかみはOK

◎まずは書きはじめよう。書きたいことを、書きたいように、書いてみよう

◎何度も読み返して、手直し、修正しよう

☆筋が通っているか、伝えたいことにそった内容か

☆書き忘れていないか

☆間違っていないか（名前などの固有名詞、事実関係、文字）

☆読みやすいか、読んだ人が理解できる文章か

☆言葉選び＝何度も同じ表現を使っていないか、イメージが伝わっているか

形容詞（うれしい、かわいい・・・）を減らして具体的な内容や動作で描写しよう

〈言葉の選び方の例〉

うれしかった＝笑った、ほほえんだ、笑みを浮かべた、白い歯を見せた、ガッツポーズした、飛び跳ねた、声を弾ませた、喜びを分かち合った、仲間と抱き合った、幸せをかみしめた、大はしゃぎした、手を取り合った、など

話した＝語りかけた、つぶやいた、大声を出した、言葉を絞り出した、呼びかけた、声を弾ませた、涙声だった、まくしたてた、告げた、スピーチした、しゃべり続けた、述べた、など

☆文章の並べ方は主語と述語が合っているか、句読点

☆「です・ます」か「だ・である」、どちらかに統一を

☆一文は短いほうが読みやすい、接続詞（そして、だから、しかし・・・）が多いとリズムが崩れる

☆ひとつの方法として、声にだして読んでみると原稿の流れや詰まりを感じやすい

◎文章を削っていこう。不要だと感じた言葉やエピソードは思いきって削除

「伝えたいこと」を常に考えながら修正を重ねていくと、伝わる文章になる

◎ひとつでも、少しでも「へえ」「知れてよかった」と思ってもらえたら大成功

【最後に：主催者からのメッセージ】

海にまつわる、おもしろいと思ったことをテーマにして、気付いたこと、体験したこと、調べたこと、感じ

たことを、文章にしてみてください。「書くことは難しい」と思う人もいるかもしれませんが、でもそれは、

事実を正しく、その背景にある思いとともに伝えたいと願うから、だと思っ

自分が感じたまま、素直に書いてみてください。ワクワクした気持ちを、届けてください。文字でつづ

たみなさんからの宝物を、楽しみにお待ちしております。

〈参考文献〉調べてみよう、書いてみよう（最相葉月、講談社、2014年11月20日発行）